令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）		
所在地	〒028-8202 岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45－22		
自己評価作成日	令和2年8月16日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者に寄り添い一人ひとりの、これまでの生活歴をくみ取り、その方らしく毎日が過ごせるように、利用者と職員が声を掛け合いながら助け合って生活していく事を心掛け、穏やかに過ごせるユニットと目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2ユニットの事業所は、三陸鉄道の野田玉川駅前にあり、列車が通る音や踏切遮断機の警報音を日常生活で感じることができ、また、交通量も少なく散歩等もゆったりできる環境に囲まれている。地域密着型特別養護老人ホームと併設され、ユニットごとに独自性を保ちつつ、特養と行事や職員配置等の連携を図りながら一体的に運営されている。利用者の意向等を配慮した宅配弁当等に地域の社会資源を活用する提案が職員から出ている。また勤務経験年数長い職員が多く、利用者・家族の安心感にも繋がっている。コロナ禍のため行動制約がある中で、散歩や草取りなどで気分転嫁を図っているほか、グーグルマップやユーチューブを活用して実家の状況や過去のお祭りの状況を鑑賞するなど、視覚に訴える工夫を凝らして利用者を楽しませている。法人の社会貢献活動として、認知症カフェの開催やいわてあんしんサポートを活用した子どもの居場所づくりにも取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼や会議の際に基本理念の確認、共有を行っている。また、ユニット内に掲示する事により意識するように努めている。	特養と一緒の基本理念をユニットに掲示し、ユニット会議で唱和している。それぞれのユニット会議で話し合いながら、具体的な目標を掲げた事業計画を毎年度作成し、基本理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症に伴い、例年行っている地域の学校や保育園等との交流会は出来ていない。社会福祉協議会で行っている地域企業の宅配弁当を利用は楽しみの一つとなっている。	年4回発行の法人広報誌「結の里・ぬくもり便り」を玉川地区で回覧している。例年、保育園や小中学校との夏祭り、運動会等の行事を通じた相互交流、婦人会や傾聴ボランティアの受け入れを行ってきたが、今年はコロナ禍で見送られている。近所から野菜や魚介類の差し入れ（今年は松茸）を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し相談や支援の場としてきたが、今年は行うことが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催は行うことが出来ていないが、例年は施設行事などに合わせ開催し、行事へ参加して頂きながら情報交換を行っている。	2ヵ月ごとに開催し、認知症カフェ開催や利用者との昼食会等の事業所行事に併せて、特養、認知症デイと一緒に運営推進会議を開催してきた。今年はコロナ禍のため行事は見送られ、会議は7月から通常の形で再開している。事業所作品展へ地域住民作品を出展する等の意見を活かしている。ゲストメンバーとして警察や消防関係者の参加を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加する事で地域の情報の共有や、課題解決に向けた話し合い、取り組みを行っている。	運営推進会議には、村の地域包括支援センターと担当課職員が委員として出席し、毎月開催の地域ケア会議では、事業所の職員も出席し運営状況等の周知に努めている。村では、事業所主催の認知症カフェに保健師を派遣し、事業所では村認知症サポーター養成研修に職員を派遣するなど、相互の協力関係が構築されている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し廃止に向けた話し合い、取り組みを行っている。外部研修に参加した際には伝達講習を行ったり、施設内研修を毎年開催し職員の知識・技術向上に取り組んでいる。	3ヵ月ごとに開催される法人主催の身体拘束廃止委員会に管理者、計画作成担当者、介護職員が参加している。身体拘束廃止の指針、身体拘束廃止マニュアルは法人で一括して作成している。昨年は11月と12月に研修会を開催し、1回はスピーチロックを取り上げている。日常の支援で不適切発言がある場合には、職員間で注意し合い、ユニット会議でも取り上げて注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等に参加する事で虐待に関して理解を深めている。また、常に意識し支援することが出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長や管理者、相談員を中心に研修会に参加し学んでいる。支援の必要性のある方については利用者、家族と相談しながら必要な支援が受けられるよう対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際には施設内の見学をして頂いたり、契約書や重要事項説明書の説明には時間をとり丁寧に説明するよう努めている。また、不安や疑問点についてはいつでも相談できるよう面会時等にもお声がけをさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来設時には近況報告を行いながら家族からの意見も引き出せるような雰囲気づくりを心掛けている。家族、利用者にも運営推進会議にも参加して頂いている。	法人広報誌（年4回）に加え、事業所での生活を分かりやすく理解してもらえるように、独自にぬくもり新聞（年4回）を定期に送付している。コロナ禍の面会制限により、家族とは電話でのやり取りとなっている。お話しの最後に「ご要望はないですか。」と伺うことにしている。	写真を主とした事業所独自の「ぬくもり新聞」を発行し、事業所全般の状況を伝えているが、面会制限もあることから、個々の利用者の生活や健康状況を家族に伝える仕組みを作り、実行することを期待します。

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際には職員からも積極的に意見を出し、話し合う事が出来ている。疑問や不満等もそのままにせず施設長や管理者に相談できるような環境を日頃から意識している。	職員会議は毎月、ユニット会議は隔月に開催し、参加出来ない職員からは事前に意見等を聞き、更に管理者による個別面談も行って、職員の意見が反映されやすいよう配意している。一部調理時間を介護に振り向けることが出来るよう、宅配のお弁当導入について職員から提案があり、村内3箇所の事業所の協力で具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労働条件を考慮した勤務時間で就労できるように考慮している。また、資格取得に積極的に取り組めるよう相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修会を定期的に行なっており、学ぶ事の出来る環境は整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は外部との交流は行うことが出来ていないが、例年は協会の活動に参加し、研修会や意見交換を行う機会を設ける事が出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後には本人・家族と面談を行い、意向や情報を伺いながら施設生活にスムーズに移行できるよう対応している。入所直後は細やかな声がけ、見守り、傾聴を行いながら不安を取り除けるよう心掛けてケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	状況によっては本人とは別の場を設ける等考慮し家族には相談しやすいよう対応している。また、来設時には近況報告を行ったり、要望の確認を行うようにしている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の変化など、その時に必要となる支援を見極め、職員、家族で相談し安心した生活を送れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存機能を生かしながら家事を手伝っていただいたり、軽作業をしていただくことで共同生活を送っている。作業後の感謝の言葉がけには笑顔が見られ、役割作りの重要性を実感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化などが発生した際には随時連絡を取り合い、情報共有を行う様にしている。また、新聞を発行し、日頃の様子が伝わるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会、外出禁止中にて活動も行うことが出来ていないが、例年は馴染みの店に出かけたりする事もある。施設内で以前からの知り合いや同郷の利用者様同士で交流できる場を設ける様努めている。	コロナ禍で面会制限が続く中、利用者は家族とユニットの外線電話でお話しできるようにしている。自宅、野田村の市日、祭りなどに行けないため、グーグルマップやユーチューブで関連する写真や動画を鑑賞してもらっている。隣市出身の利用者のため、同市の広報誌を入手し、手に取って見ることができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の特性を把握し円滑な関係が保てるよう見守りや必要な支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所など、環境変化に伴い新しいサービスにスムーズに移行できるよう本人の状況や習慣等は細やかに情報提供している。また、いつでも問い合わせには応じる旨を伝えている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の意向や希望を汲み取り支援できるように努めている。例えば、嗜好品や本人の希望の献立の提供、行きたい場所、やりたい事を取り入れたレク活動を支援している。	利用者の全員が言葉で意思表示出来ている。午後のお茶の時間帯には、利用者と職員が共にゆったりしながらお話をし、意向を伺い知る機会となっている。職員がゆったりしていると利用者が近寄り、思いなどを話す雰囲気となり、会話を重ねる中から利用者の現状を把握し、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には今までの生活や入所に至った経緯等の情報収集を行っている。入所後にも些細な行動や言葉の端々からその人らしさを汲み取り、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の細かな変化も記録に残す事で、多様な状況やパターンの把握を行い、統一したケアの提供に努めている。また、どのような支援を行う事で自立できたかなど、状況がわかりやすいような記録に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを通し、スタッフ間で意見を出し合いながら状況変化が生じていないか確認を行っている。また、職員間、家族と相談しながら必要なケアには速やかに対応するよう努めている。	モニタリングシートを用いて、その日の出勤者で毎月カンファレンスを行っている。短期目標を6ヵ月、長期目標を1年とし、達成状況に応じ見直しの際に目標を入れ替えている。利用者の一人が裁縫を特技とすることを把握し、家族の意向も確認の上、介護計画の目標に取り入れた事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテへの記録に加え、業務ノートを活用する事で職員間の情報共有を行い、介護計画や日常のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズや状況変化が生じた際には、施設長や管理者と相談しながら対応を検討している。本人、家族の意向に出来る限り添えるよう法人内外からの協力を得たり、日常業務の変更を行うなどし対応できるよう努めている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は実施できていないが、例年はお祭り見学や、学校行事への参加、商店での買い物などで地域との関わり、楽しみを持てるよう支援している。また、消防署や地域の消防団に協力を得ながら避難訓練を行う事で安全な暮らしができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には馴染みの医師による診療を継続して頂いている。救急時等、必要に応じては適切な専門医の診療が受けられるよう情報提供を行っている。	利用者の全員が、入居前のかかりつけ医を継続して受診している。家族と一緒の通院がは7名、その他は職員が同行している。家族との通院時には、かかりつけ医に事業所での生活状態を記録した情報提供書を提供している。職員同行で受診した場合には、診察結果を電話で家族へ伝えている。毎月の歯科衛生士による口腔ケアの事前情報を基に、訪問歯科診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と協力体制が整っており、日々の利用者の健康管理や急変時の対応等、相談できる環境にあり、迅速な対応に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は家族、医療機関と情報提供・共有を行いスムーズに治療を受けられるよう、また、退院後の生活に支障をきたさない様、心掛けている。要請があれば医療機関でのカンファレンスへの出席も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADL低下時や看取り期を迎えた際には家族や医療機関と連携を図り、施設ではどのような対応が可能なのか話し合い対応している。対応困難な場合は他サービスへの移行がスムーズに行われるよう調整、情報提供を行っている。	現在まで看取りの実績はないが、ユニット管理者の2名は他施設で経験している。法人の全体研修で外部講師を招き看取り介助の研修を行い、併設の特養では先行して看取り介助導入に向けた具体的な検討を始めている。但し、訪問診療、訪問看護の社会資源が地域では乏しい状況にある。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者のリスクを一覧にまとめ回覧を行う事で個々のリスク管理に活かしている。定期的に心肺蘇生法や、救急時の対応方法の研修を行う事で実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練時には地元の消防団の協力を得ながら避難経路や利用者の避難能力の確認をしている。常に物品の備えを行い、福祉避難所としての役割を果たせるよう炊き出し等の訓練も行っている。	事業所は、ハザードマップ上では危険区域外とされ、村の福祉避難所に指定されている。年2回特養と合同の避難訓練を実施し、今年度は地域住民が参加しない通報訓練を計画している。避難先は、駅前広場と裏手のコミュニティセンターとなっている。	避難経路が砂利道のため車椅子での避難に課題があり、最終的な舗装改修に至らないまでも、現状で出来る避難方法等について話し合い、避難訓練の場で試行を重ねながら最適な対策を講じらることを期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	例年権利擁護の研修会に職員を参加させ、伝達講習を行うことで尊厳や権利について学び、日々の業務時は意識するよう努めている。	トイレ誘導の際は「ちょっと散歩に」などと、立ち上がるきっかけの声掛けをしている。居室訪問の際はノックし承諾を得てから入室している。名前は苗字に「さん」付けで呼ぶことを基本としている。入浴の際には利用者の意向に添って、同性介助でも対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない日常会話や行動を見逃さず掘り下げる事により、本人の想いや希望を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているが個々のペースに合わせ過ごせるよう見守りを行っている。入浴等拒否のある際には曜日変更を行ったり、食事の場所を変える場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人に準備して頂いたり、意向を確認しながら対応している。家族の協力のもと馴染みの美容室へ通われている方もいる。施設での散髪を希望される場合は本人や家族から髪型の確認し、依頼している。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望献立や誕生日メニューの日を設けバリエーションを持たせ楽しんで頂けるよう工夫している。また、個々の能力に応じ、準備や片付けを一緒に行ったり、食材を見たり、調理の匂いを感じて頂く事も食事の楽しみに繋がっている。	利用者の希望メニューを取り入れた献立としたり、毎月1回の寿司の日、地域の宅配弁当の活用など、職員は様々な工夫を凝らしながら、1ヵ月分の献立を立てている。事前準備の盛付け、配膳等は2名、後片付けは半数の利用者が職員と一緒に各ユニットで行っている。隣のユニットでの食事にも柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師との連携や検査結果を踏まえ栄養面、体重面の管理を行っている。水分補給時には嗜好に合わせた物を提供できるよう様々な物を常に準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医院と連携しながら個々の能力に合わせたケア方法や、定期的な検診を行う事で口腔内の状態を良好に保てるよう支援している。職員もケア方法を学ぶことで技術の向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの確認を行い、状態に応じたケア方法の検討を行ったり、介護用品を使用する事で、自立を保てる場合もあり、安易にオムツへ移行しない様支援している。	排泄時間を記録し、次の誘導時間を把握する目安としている。各ユニットにはトイレが2ヵ所あり、排泄の自立者は各ユニット1名、その他の利用者はリハビリパンツ又は尿取りパッドを併用し、ポータブルトイレ利用者はいない。適切な水分摂取と排泄の促しを行うことで、膀胱炎の症状が改善した利用者の事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために習慣にしていたこと等は無いか聞き取りを行う事もある。水分量、活動量の確保を行ったり、乳酸菌食品を取り入れたり個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務の都合上、就寝前の入浴支援は出来ていないが、拒否のある場合は曜日を変更したり、個々のタイミングを把握しスムーズに入浴できる様工夫している。また、どの部分に支援が必要なのかを把握し本人の負担を減らせるよう心掛けている。	月曜から金曜内の週2回、午前を基本とし水曜を調整日にして30分前後の入浴時間となっている。現在、特浴対象者はいないが、その際は特養浴室を活用することができるメリットがある。異性介助を嫌がる方には同性で対応している。シャンプー、石鹸、保湿剤等は慣れ親しんだ好みのものを個別に用意し、籠に入れて管理している。柚子湯、菖蒲湯もあり、職員とゆったりと会話しながらのリラックスできるひとときとなっている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内は馴染みの物を持ち込んでいただいたり、個々に合わせた環境を整える事で心地よく穏やかに過ごして頂けるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更等の確認も誤薬防止のためダブルチェックで与薬支援を行っている。受診時には本人の状態を家族に説明したり、必要時には医療機関への情報提供も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や茶碗拭きなど、個々の能力に応じた役割を持つ事で感謝される喜びを感じて頂いている。家族の協力もあり嗜好品の差し入れなどを提供したり、気分転換に外食やドライブを楽しまれている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年であればバスレクなどを企画し外出するが今年度は実施できていない。	駅前にあることから三鉄を利用して宮古に行ったりしたこともあるが、今はコロナ禍で遠出できない状況となっている。外気浴を兼ねて事業所の中庭に出たり周辺を散歩している。中庭の花の手入れ、草取りを行い、刈り取った草や枝で焼き芋会を実施し、好評を得ている。今秋に紅葉ドライブを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態の応じ所持している方もおり、外出時や訪問販売の際に自ら選び購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族と対応方法の確認を行い、馴染みの関係性が継続できるよう、本人の希望時には電話などの対応をしている。また、年賀状を出したり、家族から贈り物が届いた際には本人から感謝を伝える事が出来るよう支援している。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり（うめユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清潔を保つよう心掛けている。中庭で咲いている花を飾ったり、季節事の行事を企画し季節を感じて頂いている。行事後は写真を掲示する事で日常の様子を家族へ伝える事ができ、話題作りにもなっている。	エアコン、加湿器、床暖房（一部）の設備がある。事業所の周囲に光を遮る建物などなく、日当たりは良く、季節の花や塗り絵等が飾られている。両ユニットへ自由に行き来できる連絡通路があり、運動や気分転換の場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士でソファに座り談笑したり、散歩やお茶をするなど、個々のペースで過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライバシー保持空間と考え、職員も訪室時には声をかけるよう気をつけている。馴染みの物を持ち込んでいただいたり、好みの家具の配置にする事で居心地の良い空間づくりを支援している。	エアコン、ベッド、箪笥、洗面台、床頭台、ナースコール、テレビ端子が備え付けてある。テレビ、人形、携帯電話の持ち込みがある。居室ドアには、利用者が描いた絵や習字の作品を飾り、自分の部屋であることが認識できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLに応じた環境づくりや家具の配置を検討する事で安全に生活できるよう支援している。職員も環境の一つと考え、場所や物の理解が難しい場合は見守りや必要な支援を行っている。		